

# ⑤ 実務教育・訓練

## Part 3 海事英語

- ▶ **目的** 船務遂行上必要とされる現場での英会話、及び英作文能力の向上を目的とします。
- ▶ **対象者** 航海士／船長、機関士／機関長
- ▶ **内容** 一般の英会話と異なり、船舶の運航及び荷役作業などの現場の状況に即した会話（特にJobオーダーなどに対する Smooth communication）やビジネスライティング手法の学習などを、日本人及び外国人インストラクターの指導を交え行います。
- ▶ **期間** 1～2週間

# ⑥ 資格教育

## 6-1 海技資格取得コース

### ■ 海技士コース（三級～五級）

- ①卒業者は国家試験のうちの筆記試験が免除
- ②修業期間内にすべての免許講習を修了
- ③三級（航海）は、修業期間内にBRM訓練を受講
- ④教育訓練給付金の対象
- ⑤在学期間の1／2が乗船履歴として加算
- ⑥船員職業補導所に指定

コース	三級（航海・機関）	四級（航海・機関）	五級（航海・機関）
修業期間	4か月	2.5か月又は2か月	2.5か月

### ■ 海事教育通信コース（一級航海・機関、二級航海・機関、三級航海・機関）

- ▶ **対象者** 対象コースの海技士国家試験の合格を目指される方（船員教育機関在生も含む）。
- ▶ **学習方法** 通信授業（レポート提出）による学習。  
スクーリングを海技士国家試験直前に開講し、弱点の補強等を行い合格を目指します。

### ■ 海事教育通信コース（航海基礎・機関基礎） 新人教育

- ▶ **対象者** 船員又は船員になろうとする方、若しくは海事知識を習得しようとする方。
- ▶ **学習方法** 主に通信授業とスクーリングによる学習を行います。希望者は練習船「海技丸」実習、機関室シミュレータ訓練を受講することができます。

□ 海技士コース・海事教育通信コースの詳細は別途パンフレットをご覧ください。

## 6-2 海技免許講習

海技免許講習は、海技士の免許を申請する際に修了が義務づけられているもので、本校は国土交通省に登録された講習機関です。

**講習一覧** 上級航海英語、上級機関英語、航海英語、機関英語、レーダー観測者、救命、消火、レーダー・自動衝突予防援助装置シミュレータ



レーダ・ARPAシミュレータ

## 6-3 資格取得講習

海技免許以外に、船舶の運航上必要な資格についても、海技大学校は指定講習機関もしくは認定講習機関として講習を実施しています。

### 講習一覧

第三級海上無線通信士認定講習  
船舶局無線従事者証明認定講習  
第三級海上無線通信士受験講習  
危険物等取扱責任者資格更新講習（石油・ガス・ケミカル）  
乙種危険物等取扱責任者資格取得講習  
船舶保安管理者コース（SSO講習）  
船舶保安統括者講習（CSO講習）  
第二級海上特殊無線技士講習  
限定救命艇手講習



GMDSSシミュレータ

本シミュレータを使用して装置の取り扱いの習熟と通信の実施訓練を行います。「第三級海上無線通信士認定講習」、「船舶局無線従事者証明認定講習」等の各種講習や、陸上事前訓練にも用いられます。

## ⑦ 国際協力

開発途上国の商船教育機関卒業者、船員および海事関係者に対して必要な学術および技能を教授します。



## ⑧ 安全運航・意識の啓蒙

船舶の事故が後を絶たず、海難事故の7～8割が人間のミス、いわゆるヒューマンエラーによって引き起こされています。ヒューマンエラーによる事故を回避するためには、BRM（Bridge Resource Management）の実践が不可欠であり、その訓練の有効性は広く知られています。海技大学校では、2004年に制作したビデオ「BRM—さらなる安全運航を求めて—」に続き、2008年2月にはDVD「ひとりBRM—エラーの連鎖を断つ—」を制作し、教育・訓練のフォローアップ等を行ってきました。これからも様々な情報を海事社会に発信し、安全運航・意識の啓蒙に努めて参ります。

